

# おかえり

## 特集

### ◆後世につなげたい

#### 匹見に息づく木工ろくろの技術

— 県内産の広葉樹を使い、素材そのものの色や  
木目など特長を生かしたモノづくり —

### ◆交流から滞在、そして定住へ

- 民泊
- 田舎体験・ボランティア
- 田舎暮らし体験施設
- 就業支援・住まい
- 空き家に関する各種事業



「ひきみ森の器」の皆さん。前列中央が湊川千恵さん、後列中央は代表の大谷照行さん。

# 後世につなげたい 匹見に息づく木工ろくろの技術

— 県内産の広葉樹を使い、素材そのものの色や木目など特長を生かしたモノづくり —

## ★匹見 木工の歴史

西中国山地の山懐に抱かれた益田市匹見町。日本海側と瀬戸内海側の気候の影響を受け、標高も200mから1300mまでと高低差があるため、日本でも有数の豊かな広葉樹林が広がる地域です。樹種の数には150種とも200種とも言われています。

こうした環境が、森の恵みの採取や狩猟で生きる縄文の人たちの暮らしを支え、近世には山々を移動しながら生計を立てていた木地師の漂泊地域になりました。明治以降、この豊富な木材は木炭に加工されて出荷されますが、戦後のエネルギー革命で炭の需要が減ると、広葉樹の大半はチップ材として安値で取り引きされ、地元にはわずかの利益しか残らなくなりま

す。元来、広葉樹は樹形が一本一本異なるため加工に手間がかかる

とされ、林業から置き去りにされてきました。

自然の森を伐採して丸太を売る「第一林業」、植林して育てた杉やヒノキを伐採して売る「第二林業」といった、切って育てるだけの林業から脱却し、椀や盆などの生活用品をつくり販売する「第三林業」への転換を図り、昭和60年に「第三林業開発グループ」（第三林業）が発足しました。

「第三林業」では、これまでチップとしての用途しかなかった雑木を、木工ろくろ機を使って椀や皿を中心に加工し、付加価値の高い製品を作ることが可能になりました。

こうして、明治の頃までの優れた腕を持った木地師の流れを受け継ぐ木工ろくろの技術が今に伝えられることになったのです。

## ★日常使いの器を目指して

後に「第三林業」は解散しますが、その理念は平成5年に設立された「ひきみ森の器工芸組合」（ひ

きみ森の器）に引き継がれます。

代表を務める大谷照行さん(58)は生まれも育ちも匹見。「匹見にある素材を活かしたモノづくりといえ、コレしかない」と、木工一筋でやってきました。「丸太が器になっていく過程が面白い」と言い、ふだん使いの器をモットーに、主に島根県産の多種多様な広葉樹の素材の色や木目などの特長を生かした器づくりを行って



耐熱・耐水性に優れた透明色のポリウレタン塗装を施しているため、特別な手入れが不要。木目や質感が楽しめるのも、「ひきみ森の器」の特長

## ★女性木工職人の誕生

「ひきみ森の器」は分業制で、平成30年8月現在で4名の木工職人が働いています。その中に紅一点、湊川千恵さん(39)の存在が光ります。広島市出身の湊川さんは、益田市出身の満正さんと結婚。子育ては田舎で、との思いから、平成26年3月に匹見町へ移住しました。程なく、木工の楽しさを熱く語る「ひきみ森の器」の職人から仲間入りを誘われます。もともと菓子職人で、モノづくりが好きだったこともあり、自然な流れで大谷さんの下での産業体験※が始まりました。

最初の1年は、木の削り方や塗装など、様々な技術を学びました。体力も要するため「想像以上に大変」で、納得のいく形に仕上げることもままならず、悩むことが多かったそうです。それが3年目に入り、専用の刃物を使って器の形を整えていく「仕上げ」の作業を





ベルトサンダーで料理ベラを磨く湊川さん

任されるようになると、ようやく「木工の楽しさを実感できるようになりました」。

### ★料理ベラ 復活

湊川さんは1年前から、料理ベラの制作に追われる毎日を送っています。料理ベラは、平成10年頃

に大谷さんの師匠、時松辰夫さん（大分県由布市）が考案した人気商品でしたが、職人不足で制作を中断していました。制作再開に当たり、大谷さんは「丁寧に繊細な仕事をする」湊川さんに一任しました。今後、「靴ベラや孫の手、スプーンな



「料理ベラは、炒めたり混ぜたりと用途が広く、使いやすい上に機能美も兼ね備え、贈り物としても人気です」（湊川さん）

町の豊富な樹種を象徴する「101」の数字を組み込んだ「ひきみ森の器101」

（※）益田市は、市外からの移住者で農林水産業へ就業することを目的に産業体験を行う人を、「益田市農林水産業就業支援助成金」制度により支援しています。

ど小物類へ仕事の幅が広がるのでは」と大谷さんは期待しています。料理ベラは、器とは行程も道具も異なる上に、最後は手作業で整えていくため、同じ形に仕上げるまで鍛錬を要しました。

町内の売店に料理ベラが並び始めると、「私の家にもあるよ」とか「販売の再開を待ってたよ」といった嬉しい声が地域から次々に寄せられました。その中に、「柄の長い料理ベラが欲しい」という要望があったため、大、中の2種類を揃え、左利き用も作りました。「自分が作るモノを求めてくださるお客様の顔が見え、モノを通じて交流ができること」。菓子職人だった頃から、人と人とのつながりを大切にしてきた湊川さんは、木工職人となった今も「お客様の

顔が見え、声が届く距離感」を第一に考え、広島で雑貨兼料理店を営む友人の提案で、匹見や「ひきみ森の器」の商品のPRを兼ねた委託販売や、益田市内の雑貨店でも期間限定の展示即売会を実現。

「お客様と直接やり取りできることが、仕事へのやりがいにつながる」と言い、「時間はかかるかもしれないけれど、人から人へと商品の良さが伝わってほしい」という思いを持っています。

### ★新生 ひきみ森の器

大谷さんも以前から手掛けたかったロゴマークやパンフレット制作やホームページの一新に着手しました。依頼を受けた匹見町ゆかりのデザイナー、堀田三枝さん（39、

「私たちの世代は、伝統や技を守ることに意識が向いてしまうけれど、若い人や女性の感性やチャレンジ精神も取り込み、うまくパトナタッチができるよう基盤を作り、支えていきたい」と大谷さんは話していました。



堀田三枝さんが制作したパンフレット類

を商品ブランド名とし、すべての商品にこのブランド名を付けて販売を始めました。

また、木工の裾野を広げようと、一人からでも随時指導を行う木工ろくろ教室や、産業体験の受入も行っています。「木工という難しいような印象がありますが、女性でも取り組めるので気軽に体験してほしい」と湊川さん。

# ～交流から滞在、そして定住へ～

ますだ暮らしキャラクター



ぐりお わさまる ゆずりん

ちょこっと匹見を体験したい方は…

◇民泊…匹見町には、4軒の民泊があります。(平成30年9月末現在の情報です。)



民泊  
みよし  
「三四四」

《体験内容》  
ものづくり体験(布ぞうり、かご編みなど)、山菜採り、田舎料理体験、春・秋農業体験など

■民泊体験料(共同調理含む) 6,000円  
■益田市匹見町道川イ214  
Tel/Fax. 0856-58-0020



農家民泊  
うつだに  
「内谷とちの郷」

《体験内容》  
わさびの苗植え・収穫体験、山菜採り、料理体験(こんにやく、わさびの醤油漬けなど)、もちつきなど

■民泊体験料(共同調理含む) 6,000円  
■益田市匹見町石谷口561  
Tel/Fax. 0856-56-0589



農家民泊  
なごうばら  
「長尾原のへや」

《体験内容》  
農作業体験(稲刈り、牛の世話など)、苔玉作り、農産加工品作り(漬け物、こんにやく、ようかん、ジャムなど)

■民泊体験料(共同調理含む) 6,000円  
■益田市匹見町澄川イ789  
Tel/Fax. 0856-56-0471



林家民泊  
ほんま  
「本間ん家」

《体験内容》  
囲炉裏と七輪での食事作り、薪割り、薪で風呂を焚く体験など

■民泊体験料(共同調理含む) 6,000円  
■益田市匹見町道川イ177  
Tel. 090-8878-0095

## ◇田舎体験・ボランティア

### 【田舎体験】

匹見町では登山や雪山歩きなど、豊かな自然を生かした体験をはじめ、「田舎料理体験」や「ものづくり体験」、「収穫体験」「歴史・文化体験」などを楽しむことができます。



わさび収穫体験

### 【ボランティア】

少子高齢化が進む匹見町では、集落内の共同作業やイベント開催などが年々困難になっています。そこで、地域外の方にボランティア会員登録をしていただき、軽度の作業に携わってもらうことで、田舎と都市との交流を図っています。



ブルーベリー摘み取り作業

## もっと匹見に滞在したい方は…

田舎暮らしの体験や、農林業またはその他の産業に関する技術や経営ノウハウを習得するために滞在可能な施設として、期限つきのお試し施設「益田市立田舎暮らし体験施設」を開設しています。

### 《使用者の条件》

- (1) 益田市への移住を強く希望し、田舎暮らしを体験しようとする人
- (2) 農林業その他の産業に関する技術や経営ノウハウの習得のため研修を受けようとする人

### 《使用期間》

1ヵ月以上3年以内

### 《使用料》

施設区分	戸数	使用料(月額)
単身用(1DK)	2	8,100円
世帯用(3DK)	2	16,000円

※1部屋に1台分の駐車スペースを用意しています。

### 《使用について》

施設の使用については、市長の許可を受ける必要があります。使用希望の人は、「田舎暮らし体験施設使用申込書」を下記までご提出下さい。

(空室状況等詳しくは、益田市のホームページをご確認いただくか、下記までお問い合わせ下さい。)



## 匹見への定住をお考えの方は…

### ◇UIターン相談窓口

匹見への移住をお考えの方のために、相談窓口を設置しています。困ったことや分からないことがあれば、お気軽に下記窓口まで、ご相談ください。

### ◇住まい

空き家や公営住宅をご紹介します。

### 空き家に関する各種事業

#### 空き家バンク制度

益田市は、空き家の有効活用とUIターン希望者の定住促進を図るため、「空き家バンク制度」を創設しています。この制度は、空き家を賃貸あるいは売却してもよいと考える所有者と、UIターン希望者にそれぞれ登録してもらい、総合支所が窓口となり、空き家の情報収集・提供を行うものです。

年々、田舎暮らしを強く希望する方々が増えています。匹見町内に空き家をお持ちの方で、空き家を「貸し住宅にしてもいい」「売却してもいい」とお考えの方がいらっしゃいましたら、ご連絡下さい。

#### 益田市空き家改修事業

「空き家バンク制度」の住宅を利用して定住する場合、その住宅を改修した際の経費の3分の1以内(上限30万円)を①空き家の購入者または入居者(UIターン者に限る)、または②UIターン者と賃貸借契約を締結した空き家の所有者に補助します。ただし、経費の額が30万円以上であるものに限りません。

※この他にも、空き家や住宅に関する補助制度があります。

## ◎ 定住・UIターンに関する問い合わせ先

益田市匹見総合支所 地域振興課  
〒698-1211 益田市匹見町匹見イ1260

電話 0856-56-0302 FAX 0856-56-0362  
ホームページ <http://www.city.masuda.lg.jp/teiju/>